

研究主題：主体的、対話的で深い学びの実現を目指して（3年次）

～TANKYU～

谷地南部小学校

校内研究だより

2023. 4. 17

No.2 文責 荒木秀

これまでの研究について②

前号で説明した通り、視点1「主体的な学びをつくるための工夫」視点2「対話的な学びをつくるための工夫」に基づいた学校研究は、単元構成や目的に応じた交流の場の設定など、手前味噌にはなりますが、それなりに成果を上げることができました。

授業研でも、視点に沿って参観者は授業を見、事後研では視点に沿った話し合いを進めてきました。しかし、同時に視点があるが故に、授業者がやりたいことを歪曲しなければいけない場面や事後研で視点以外のことについて話し合うことができないという場面も見られました。



本来学校研究は、年に1度きりの授業研のために行なうものではありません。年間200日ほど行われる毎日の授業がよりよくなるよう研究を進めていかなければいけないはずです。そこで、昨年度の研究の反省を受け、今年度は、研究主題は変えずに、個人個人が自分の課題とすることや取り組んでみたいことに挑戦する個人研究に方向転換することを決定しました。

自分のライフステージに合った課題を設定し、文献や研修を通して学び、学んだことを実践し、ふり返りまた新たな課題を発見する。まさに、子ども達に求める「探究のサイクル」（課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現）を、私たち教員も同じようにやっていくというものです。担外の先生方にもやっていただきますからね。

研究全体会の中でまた詳しく説明しますが、個人の課題の決定をGW明けくらいまでと考えています。ぜひ、今年度出会った子どもたちの実態からでもいいですし、自分自身が課題だなと感じることでもかまいません。この2週間で明らかにしてみてください。

私たち一人ひとりの学びが全体に共有され、その結果子ども達にとって楽しく有意義な授業となり、同時に私たち職員もやりがいを感じられる、そんな学校研究を目指していきましょう。でも、がんばり過ぎは禁物ですよ。できる範囲でがんばりましょう。